



令和4年度 自己点検評価表

社会福祉法人光陽会
認定こども園 新検尾台保育園

<評価について>
全職員の自己点検評価の平均を以下のような基準で示しています。
A:大変良い B:良い C:一部検討を要する D:改善を要する

項目		内容	評価	
1. 保育の理念・保育観		1. すべての子どもについて、ひとりひとりの存在とその人権を尊重している。	A	
		2. 児童福祉法の理念に基づいて、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保証することがこども園の重要な使命であると理解しているか。	A	
		3. 日頃から「幼保連携型こども園教育・保育要領」をよく読み、その理念を理解したうえで、保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとしているか。	B	
2. 保育目標について		1. 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	B	
		2. 目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	B	
		3. 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	B	
		4. 目標は、前年度の反省を生かしているか。	B	
		5. 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	B	
3. 保育の計画及び評価		1. 指導計画を作成するとき、「幼保連携型こども園教育・保育要領」を読み、参考になっているか。	B	
		2. こども園の方針である教育・保育計画をもとにして、指導計画を作成しているか。	B	
		3. こども園には指導計画（年・月・週・日案など）の作成という、あらかじめ見通したもった計画性が必要だと思うか。	A	
		4. 行事の種類や実施回数は適切か。	A	
		5. 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	B	
		6. 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	B	
		7. 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	B	
4. 保育の内容 (乳児保育)	健康	1. 離乳食については、家庭や調理人、栄養士と連携をとりながら、ひとりひとりの子どもの状況に配慮しておこなっている。	B	
		2. ひとりひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	B	
		環境	1. 午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている。	B
			2. 生活や遊びのなかで、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている。	B
	3. 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。		B	
	4. オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。		B	
	言葉	1. 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	B	
		1. 誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	B	
	(1歳以上3歳未満児)	健康	1. 生活リズムについては、ひとりひとりの子どもの状態に合わせて対応している。	B
			2. 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	B
			3. 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	B
			4. 身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	B
			5. 子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A
			6. ひとりひとりの排泄状況に応じた配慮をしている。	A
		人間関係	1. 保育士との安心した関わりの中で園生活を送れるようにしている。	A
			2. 他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	B
			3. 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	B
		環境	1. 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている。	B
			2. 積極的に戸外遊びを取り入れて身体発達の発達を促している。	B
			3. 見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている。	B
	言葉	1. 楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている。	A	
		2. 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	B	
	表現	1. 水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている。	B	
		2. 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	B	
		3. 子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	B	
	配慮	1. 体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	B	
		2. 事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている。	B	
		3. 進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	B	
(3歳児以上)	健康	1. 生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A	
		2. 食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	B	
		3. 十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A	
		4. 園内外の危険な場所を知り、安全に気づいて遊ぶように働きかけている。	A	
	人間関係	1. 友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	B	
		2. 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B	
		3. 友達と生活する中で決まりの大切さに気付き守れるように配慮している。	B	
		4. 生活や遊びのなかで、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	B	
		5. 身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	A	
	環境	1. 園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	A	
		2. 伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	A	
		3. 自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B	
言葉	1. 人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につかせている。	A		
	2. 絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉の面白さに気づくように心掛けている。	B		
	3. 子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	A		
表現	1. 音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	A		
	2. 一人一人の子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるように心掛けている。	B		
配慮	1. 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を理解し保育にあたっている。	B		
	1. 身長・体重等の測定や医師の判断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるときも、日常の保育に生かしているか。	B		
5. 健康支援・保健活動 (健康・発達)		2. その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めているか。	A	

		3. 子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嚥託医の指導を受けるなど日頃から学習しているか。	B
		4. 感染症発生時に、発生状況や感染予防策について保護者に通知している。	B
		5. 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携している。	B
	(食育)	1. 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	B
		2. 乳幼児期に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A
		3. 展示食で年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	A
		4. 調理員、保育士、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている。	A
		5. 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会を作るように心掛けている。	B
	(健康増進)	1. 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
		2. 子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症(アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など)について、すべての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	B
	(疾病等への対応)	1. アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子供に対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
		2. アレルギー疾患を持つ子供に対し、調理員と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている。	A
	6. 環境衛生・安全管理 (環境衛生)	1. 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	B
		2. 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。	B
		3. 生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	B
		4. 園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	B
		5. 子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	A
	(事故防止)	1. ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	B
		2. 睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	B
		3. 外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる。	B
	7. 災害への備え (安全確認及び対策)	1. 消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	B
		2. 施設の安全点検を行い、改善している。	B
	(避難への備え)	1. さまざまな災害を想定した避難訓練を行っている。	B
		2. 保護者との連絡体制や引き渡し方法が確認されている。	B
	(関係機関との連携)	1. 地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	B
	8. 子育て支援 (施設)	1. 保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	B
	(保護者)	1. 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	B
		2. 園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができている。	B
		3. その日の子どもの健康状態や興味をもった遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めている。	B
		4. 保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く応対するように努めている。	B
		5. 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	B
		6. 「園だより」や「クラスだより」などを定期的に発行している。	A
		7. あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	(地域)	1. 日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが地域の子育て支援につながることを自覚しているか。	B
		2. 保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている。	B
		3. 相談の基本原則(受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持)について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えている。	B
	(外部評価)	1. 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。	C
		2. 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	B
	9. 職員の資質向上 (保育園の職務・役割分担)	1. 園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできるか。	B
		2. 園長や主任などと意見が合わないとき、十分に話し合ったうえで、あなたは上司の指示に従うことができるか。	B
		3. 登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策のしかたを相談しているか。	B
	(分掌・体制)	1. 能率的、合理的な運営組織になっているか。	B
		2. 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	B
		3. 職員の配置は適材適所か。	B
	(求められる専門性)	1. 相手の立場に立った挨拶、電話、来客者応対ができている。	C
		2. 自己の健康管理ができている。	B
		3. 保育業務の中で知り得た子供や家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
		4. 保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
	(保育士としての資質向上)	1. 業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告、連絡、相談を実践している。	B
		2. 保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めているか。	B
		3. 自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができるか。	B
		4. 自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができるか。	B



【次年度の課題】

- (保育の内容) 子どもたちが様々な活動に取り組むなかで進んで行動し自信へつながる保育を展開していく。
- (保育の内容) 子どもたちへの言葉遣い、声の大きさ、対応、怪我や事故など細部まで丁寧に保育ができるように心がける。
- (保育の内容) 子どもたちが日々成長していけるように毎日の気づきを大切に知的好奇心や探求心を引き出し満たせるような保育ができるように勉強していきたい。
- (保育の内容) 音楽やリズム遊びをもう少し取り入れる。
- (職員の資質向上) 職員間で情報を共有して子どもひとりひとりを大切にしたい良い保育を提供する。
- (職員の資質向上) 保育教諭同士で相談や質問をして、より良い保育を目指した話し合いができる環境を構築する。
- (子育て支援) 保護者対応について、ひとつひとつの相談により丁寧に親身になって一緒に考える。
- (子育て支援) 子どもひとりひとりのその日の様子を連絡事項を通して保護者により詳細に具体的に伝える。

【園全体の評価】

コロナ渦において、園内での感染防止に努めながら、子どもたちの保育教育を円滑に進めることができた。しかし、子どもたちにとっては感染症対策としたマスクの着用や接触行動の回避によって、失われた保育教育効果もあったことも事実である。令和5年度より新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行されることを受けて、次年度に向けて、いま一度、園全体で子どもたちへの保育教育内容を見直し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ質の高い保育教育を実践していく。そのためにも、より一層、保育教諭が、研修などを活用した“学び”を通して、個の質を高めていくことで園全体の保育教育の質向上に繋げていく。また、その内容について、小学校就学に向けた幼小接続を念頭に、各クラスの内容を全教諭で確認し合い、全学年で繋がりをもった保育教育を展開していく。環境衛生と安全管理においては、全職員が協力して問題なく実施することができた。次年度も引き続き、特に、子どもたちの安全管理には十分に気を配りながら、子ども家庭庁から示されたガイドラインを遵守して保育教育を推進していく。子育て支援については、保護者や地域のニーズを受け止め、ひとりひとりの保育教諭が密にコミュニケーションを取りながら課題に丁寧に取り組むよう努める。

今回の自己評価の内容を踏まえ、全職員が令和4年度の振り返りと令和5年度に向けての改善点を見出すことができた。それら改善点及び新たに発生する課題に対して、職員会議等で継続的に対策を話し合い、当園の保育理念と保育方針の実践に向けて努力する。

